

# こどもの城 ニュース

## KODOMO NO SIRO NEWS

2000・10・15 No. 110 発行／(こどもの城)広報部 ☎03-3797-5666  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1



### 21世紀の元気 平早勉の世界

遊び道具は少ないけど、一台の三輪車を何人も楽しんでいるのは、カンボジアの子どもたち。プノンペンからバイクで一時間ほど走った郊外の湖畔そばには、長年の紛争で家を失った家族が簡素なぼったて小屋で生活を送る。未舗装の道路には大きな穴があり、車が通らないので子どもにも格好の遊び場。車輪を捧でまわす遊び、追いかけごっこと歓声と赤砂がまいる。夕暮れどきになっても、子らのパワーは全開。もうすぐ待望の晩飯だ。



### みんなで力を合わせて作りました

今回初めての試みとして、児童館に遊びに来た子どもたちが力を合わせて作ったジオラマ作品を展示。児童館の交流のきっかけになればと呼びかけたもので、全国22の児童館から作品が集まりました。

作品を作った子どもの年齢や人数はいろいろです。民話を題材に「かっぱ」の家族が豊かな自然のなかで楽しそうに遊んでいるものなど、それぞれの個性あふれる作品ばかりです。そのなかから、いくつかの児童館の作品と制作風景を紹介します。

### “家族”をテーマに折り紙のジオラマを制作

## 全国から個性豊かな作品集まる

11月1日の開館記念日をはさんだ、10月28日～11月5日は(こどもの城)の「ファミリーウィーク」。お父さん、お母さんだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんもいっしょに“ファミリー(家族)”で楽しんでもらおうといういろいろな遊びのプログラムを用意しました(2面参照)。

10月28日～11月19日には、ギャラリーで「おりがみカーニバル」(共催=日本折紙協会)が開かれます。つる、やっこさん、かぶとなどの伝統的な折り紙は、親から子へ、子から孫へと伝えられ、世代をこえて楽しめる遊びの1つ。今回は、全国の児童館によびかけて作ってもらった“家族”をテーマにした折り紙のジオラマ作品も展示します。

**おりがみ  
カーニバル**  
10月28日  
～11月19日



みんなで、あ・そ・ぼ  
(秋田市東児童センター／6～12歳)

外遊びができない“ちょっと残念な日”に考えた短いお話―「だれか遊びにこないかな?」。つぎつぎに動物の親子が遊びにきます。話に引き込まれて心もほんわか、顔がほころんでくるのがわかります。



不思議な森のほのほの家族  
(えひめこどもの城／幼児～中学生)

身近な動物の家族がモチーフ。6つのステージの上にほのほのとした家族のようすを表現しました。6月10・11日に行った「おりがみワールド」の催しに集まった子どもたちが制作しました。



家族  
(埼玉県川口市立芝児童センター／幼児～小学生)

大きなモミの木の下に、いろいろな動物の親子―立体的な折り紙作品なので動きも感じられ、それぞれが豊かな表情をもっています。親子のふれあい、家族の温かみを感じとってください。



かっぱ一家の屋下がり  
(福岡県北九州市立高塔児童館／小学6年生)

かっぱたちは長老を中心に、大人から子どもまで、助け合って共同生活を営み、生活手段を自然に身に付けていきます。若松区の夏の火祭りは「かっぱ祭り」と呼ばれ、今も地域のなかで生き続けています。

### 第7回おりがみカーニバル

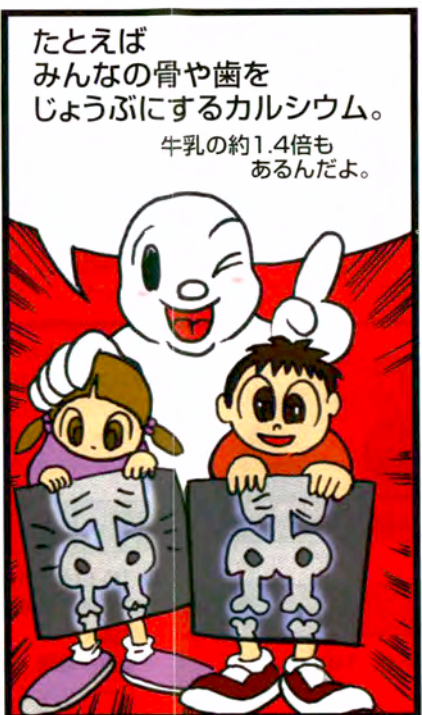
日本折紙協会との共催で開いてきた「おりがみカーニバル」も今年が7回目。10月28日～11月19日にギャラリーで開催。開場時間は、(こどもの城)の開館時間と同じ。  
日本折紙協会所蔵の「いろはシリーズ」から家族や親子が登場するジオラマ作品、「おりがみカーニバル」公募展の入賞作品のほか、日本各地の児童館のお友だちが作った作品も展示します。  
期間中の土・日曜日・祝日に「おりがみでジオラマを作ろう」のワークショップを行います。

### 11月1日は(こどもの城)に赤ちゃん大集合!!

0～1歳児の子どもとその親を対象に、参加者同士の自由な交流の場(井戸端会議)で、育児情報の交換や医師・保健婦・管理栄養士・臨床心理士などの専門スタッフによる育児相談を行っている「赤ちゃんサロン」(原則第2・4火曜日に開催)は、毎回たくさんの親子でにぎわっています。

ファミリーウィークには、「赤ちゃんサロンスペシャル」を研修室で開催。通常の「井戸端会議」に加えて、午後には体育室・音楽ロビー・プレイホールで親子(乳幼児)で楽しむ遊びのプログラムを行い、さまざまなふれあいを楽しむことができます。

- **赤ちゃんサロンスペシャル** (午前10時30分～午後3時／研修室)  
通常の「赤ちゃんサロン」のプログラムのほか、小児保健部顧問の巷野悟郎医師(小児科)の楽しいトークコーナーもあります。
- **お母さんと赤ちゃんのすくすく体操** (午後2時～3時／体育室)  
タオルなどの身近な道具を使って、お母さんと赤ちゃんの親子体操。スキンシップをはかりながらの体操です。
- **みんなのにこにこ広場** (午後3時～3時30分／プレイホール)  
手遊びやパネルシアターなどを親子で楽しむ遊びの広場です。
- **パチパチスペシャル** (午後1時～1時30分、2時～2時30分／音楽ロビー)  
親子で楽しめる音楽遊びやダンス。歌の演奏もあります。



さっそく今日から じょうぶになろうと♡ やめて〜♡ すぐった〜!

**骨や歯を丈夫にするカルシウム。**

「スキムミルク」は、健康づくりの食品として注目されています。それは、牛乳から乳脂肪(バター)を取り除いているので、動物性脂肪が極めて少なく、低カロリーで、良質の「たんぱく質」「カルシウム」「ビタミンB」が多く含まれており、カルシウムの吸収率が非常に高い食品だからです。  
\*児童給食事業部は「スキムミルク」を無償で輸入し、全国の児童福祉施設に低価格で提供しています。

スキムミルク (22g、牛乳1本分相当) と牛乳 (200g、1本) の成分比較	286mg
スキムミルク	200mg
牛乳	0.62mg
たんぱく質	5.8g
乳脂肪	6.4g
カルシウム	0.2g
ビタミンB	0.3mg

TEL03-3591-3245  
財団法人 児童育成協会 児童給食事業部  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-21 FAX03-3595-2216



【こどもの城】「ファミリーウィーク」10月28日～11月5日

おじいちゃん、おばあちゃんもいっしょに!

家族で楽しむ遊びのプログラムがいっぱい

11月1日の開館記念日をはさんで、10月28日～11月5日は、【こどもの城】の「ファミリーウィーク」(10月30日=月曜日は休館)。

「家族」の絆(きずな)を深めてもらおうと、家族(三代)で楽しめるスポーツ遊び、音楽遊びなどさまざまな遊びのプログラムを用意しています。

「ファミリーウィーク」の主なプログラムは以下のとおりです(都合により変更することもあります)。

親子三代楽しくレクリエーション

おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして私——親子三代で楽しめる鬼ごっこやじゃんけんゲームなどのレクリエーション・ゲーム。

第7回親子体験ワークショップ

紙のさまざまな性質を造形活動をととして親子で体験します。(月曜日休館)

「ペーパー・com」(親子)

「タケ・ハッケン伝」(小3以上)

開館記念人形劇フェア (11月3～5日/フリーホール)

人形劇の公演 (11月3、5日)

童心座「グリム童話より～あかさきん ほか」(3日)

ばびうべ劇「そのそによるによる」(5日)



昨年の「チャレンジゲーム」

人形遊びのワークショップ (11月4日)

くつしたで青虫を作り、動かし方や遊び方を教わります。対象3歳児(年少)以上の幼児と親(祖父母)。定員=15組×2回(先着順に受け付け中。お申し込みお問い合わせは、プレイ事業部 ☎03-3797-5661)

わくわくボックス

(10月28日～11月5日/パソコンルーム) パソコンできれいな色や模様をつけて、いろいろな形の宝箱を作ります。

だんだん村の秋祭り～あそびの屋台大集合

(11月3～5日/屋上ふしぎが丘) 5台の「遊び(ゲーム)の屋台」がふしぎが丘に並びます。ボランティアのみなさんが企画する、楽しいチャレンジゲームです。

つくって遊ぼう親子工房「トントンランタン」

(11月2～4日/保育室) 穴あけポンチや木づちなどの道具を使って、かわいらしいランタンを親子で作ります。

第15回造形スタジオ展(11月1～26日/造形スタジオ)

昨年11月から今年10月までの1年間の造形スタジオの活動(プログラム)を紹介する展示。(月曜日休館)

遊びと造形発想展2000(11月1～26日/3階ロビー)

長年にわたって美術教育に携わってきた、高山正喜久筑波大学名誉教授の「遊び心」に満ちたユニークな実践活動を展示します。(月曜日休館)

第7回おりがみカーニバル(1面参照)

家族のための遊びのワークショップ「ファミリープレイタイム」

「遊び」とおして家族のコミュニケーション

子どもだけのためではなく、また大人のためでもなく、親子がいっしょになって考え、遊び、楽しむプログラム——家族のための遊びのワークショップ「ファミリープレイタイム」が、毎月1回(土曜日/日曜日)プレイホールで開かれています。

ワークショップを企画するというもの。いろいろな親子との出会いの場にもなっています。活動プログラムは幅広く、科学遊び、クラフト、工作、アウトドアプログラムなどさまざまなジャンルの遊びを取り上げています。

第26回NCC杯バンパー大会

岸健人さん(小学生の部)と矢口淳気さん(中学生の部)が連覇

第26回NCC杯バンパー大会が9月23日の秋分の日に開かれました(写真下)。バンパーは、ピリヤードに似たゲーム。プレイホールの高学年コーナーにあります。

第26回大会では小学生の部9人、中学生の部8人が参加し、熱戦が繰り広げられました。成績は以下のとおり(敬称略)。

【小学生の部】優勝=岸健人(小5)、第2位=松本大輝(小5)、第3位=位高駿夫(小5)、第4位=菅原龍平(小6)

【中学生の部】優勝=矢口淳気(中2)、第2位=加納希生(高2)、第3位=大矢雄介(高3)、第4位=大河原章広(中2)、敢闘賞=井上洋市朗(中3)



めずらしい形だけでよく飛ぶ紙飛行機を作った、輪のなかをとおす遊びなどに親子でチャレンジしました。

今回は、滑空しては浮き上がるという動作を繰り返してスイーッ、スイーッと飛ぶ「すずめ飛行機」と一直線にスーッと飛ぶ「はがき飛行機」を作った、遠くまで飛ばす紙飛行機大会を行いました。

作った飛行機を飛ばすときには、翼の調整方法などをお父さんが熱心に質問、子ども以上に熱中して飛ばしていました。

横で見守っていたお母さんも、よく飛ぶのを見ていっしょになって飛ばして遊んだり、家族ぐるみで楽しんでいました。

大会は5つのグループに分かれての対抗戦。5人がいっしょに飛ばす1回ごとの順位点と飛行距離点の合計で競われました。

翼の調整と飛ばし方の微妙なバランスが飛行に影響するので、子どもと大人がいっしょになっても、必ずしも大人が有利とはかぎりません。力が入りすぎたり、旋回して戻ってきたり、大人のほうが大苦戦。でも、13mを超える大飛行をしたのは、お父さんが飛ばした紙飛行機。子どもと同じように、うれしそう顔をしていました。

10～12月の予定は、次のとおり。



「うまく飛んで、輪をくぐるかな?」(ファミリープレイタイム)

カナダのアニメーション作家 コ・ホードマンさんの指導でアニメ制作に挑戦 できあがった作品に大きな拍手



ホードマンさんの指導で、マトリオスカを動かす子どもたち

こどもの城となかまたち 子育ての「道しるべ」として……

「子育ての道しるべ」として、あらゆる角度から子育てを支援する「京都市子育て支援総合センターこどもみらい館」が、昨年12月、緑あふれる京都御苑の南側にオープンしました。

少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化など、子どもたちを取りまく環境が大きく変化。子育てに不安や悩みをもつお母さんたちが、気軽に集まって情報交換をしたり、専門家に相談したりすることができる場所と機会が求められています。



ボランティアによる読み聞かせ(子育て図書館)

のなか、市民が安心して楽しく子育てができるように、あらゆる相談に応じ、きめ細かな情報を発信する「子育て支援の中核施設」として「こどもみらい館」は作られました。

地下1階地上4階の建物のなかに入ると、吹き抜けの多目的ホール。右側には、大型の総合遊具と木の砂場、木馬、ごっこハウスなどがある「こども元気ランド」。

2階は、子育て相談のコーナー。乳幼児を遊ばせながらカウンセリングする「プレイルーム」、家庭の雰囲気なかで親子のかわり方を体験する、マンションのモデルルームみたいな「ラ

イフルーム」、医師が相談に応じる「健康相談室」などがあります。3階は「子育て図書館」。子育てに

に関する専門図書や絵本、ビデオ、CDなどがそろっています。フロアリングの「はだしのコーナー」では、毎日午前と午後の2回、ボランティアによる読み聞かせが行われています。

こどもみらい館では「乳幼児を子育て中の保護者の方を、300人を超える市民ボランティアのみなさんとともに支援しています。子育てに疲れたり、友だちに会いたくなくなったら、「こどもみらい館」に来てください。

2階は、子育て相談のコーナー。乳幼児を遊ばせながらカウンセリングする「プレイルーム」、家庭の雰囲気なかで親子のかわり方を体験する、マンションのモデルルームみたいな「ラ

「シロニーオリンピック2000」で熱戦!

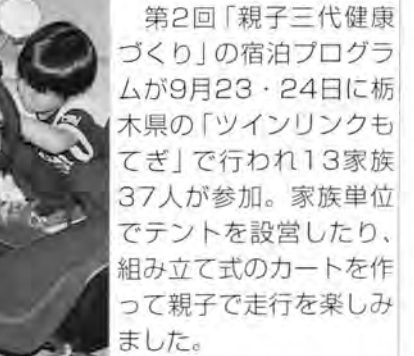
小学校1～4年生の「遊び」のクラブ「キッズクラブ」では、おから開催されているシロニーオリンピックに対抗(?)して、9月16日に「シロニーオリンピック2000」を開催。みんなでスポーツにちなんだ題名のゲームにチャレンジ!



親子でキットカーを組み立て、走行

第2回「親子三代健康づくり」の宿泊プログラムが9月23・24日に栃木県の「ツインリンクもてぎ」で行われ13家族37人が参加。家族単位でキットカーを組み立てて親子で走行を楽しみました。

登場したものと同一マトリオスカの形を使って実際にアニメーションを作ってみようというプログラム。マトリオスカは、大きな人形の中に小さな人形、その中にさらに小さな人形というように、同じ形の人形が次々と出てくるロシアの民芸品。6体で構成されているマトリオスカを使って、実際にアニメーションを作るワークショップを行いました。「アニメーションを作りたい人」と呼びかけると、みんなが元気よく手をあげます。その中から、人形を動かす人6人、撮影を担当する人1人の計7人を選んで1組目のワークショップがスタート。撮影台の上に人形を置いてホードマンさんの指示にしたがって、1コマずつ撮影していききました。



23日はホードマンさんの「マトリオスカ」を上映したのちに、作品に

平成13年度「幼児グループ」会員募集中

保育研究開発部では、平成13年度の「幼児グループ」のメンバーを募集しています。

幼児グループは、【こどもの城】を保育の場として、週4日(火～金曜日、午前10時～午後2時)、2年間にわたって継続的に活動する4・5歳児のグループ。曜日ごとにメンバーの異なる「保育クラブ」の3歳児が加わり、少人数の異年齢混合グループ(3～5歳児)で活動します。

友だち集のなかで生活体験を重ね、一人ひとりの感じとる力、自分自身を表現する力を育てることが保育のねらいです。複数のスタッフがチームを組んで保育を担当し、ボランティアの協力もえて、人とのかかわりを豊かに育てることをめざしています。

【募集対象・人数】4歳児(平成8年4月2日～9年4月1日)10人、5歳児(平成7年4月2日～8年4月1日)若干名

【募集要項】申し込み希望の方は、必ず見学説明会にご参加のうえで、ご応募ください(10月18、20日。いずれも午前10時30分～12時。電話予約が必要)。応募用紙は、見学説明会終了後に配付します。

【お問い合わせ】保育研究開発部「幼児グループ」係(☎03-3797-5669)へ。



青山劇場

●ザ・コンボイ・ショー Vol.18 「新・タイムトンネル」

●ミュージカルコメディ 「ワンス アポン ア マットレス」

●弘前劇場「冬の入口」

青山円形劇場

●【第14回青山演劇フェスティバル】

マ作=高泉淳子マ演出=白井晃マ自動人形作=ムットーニ

●ク・ナウカ「王女メディア」

●【第14回青山演劇フェスティバル】

●MUSIC REVOLUTION, DANCE RENAISSANCE Vol.3

●ハラホロジャンクリタ11月公演

●【お問い合わせは、青山劇場予約センター(☎03-3797-1400)へ。